



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

利用状況案内板 (★募集中 ★満員)

★ナイス・ケア

★ナイス・デイ (定員10名/日)

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	5	7	5	6

★ナイス・ホーム(登録者 16名/定員 21名)

★愛宕の家(入居者 15名/定員 17名)

★つしま紹介所 ★ナイス・キッズ ★打太鼓

～上記を参考にご利用ください～



《8月予定》

10日 外食 DAY
15日 14:00～愛宕の家家族懇談会
16:00～盂蘭盆経
17:00～19:30 夏の宴

20日 避難訓練
23日 お楽しみ会

不定期行事
その日の天気や意欲等で状況判断し外出先一覧を参考に社会生活参加します

感動とビックリ / ナイス・ホーム

1年前から関わり始めた Sさん。始めは歩行さえ困難な状態。ソファーに座っても眠っている時間の方が長いという毎日。ところが、最近、歩行器も使わず、一人で歩いて外へ出て行こうとする。帰宅することを楽しみに玄関まで行き来するのだ。体操も気が向くと手足を動かし、レクリエーションでも、色々な利用者さんとやり取りが出来る。始めはオウム返しだったが会話ができるようになってきた。

本当に元気になった。人間の身体能力ってすごいなと思う。病状からみて、これは無理だろう、ここまでは回復しないだろう…と勝手に思っていたも、環境とその人の力でみるみる回復することは有り得るのだ。この1年の変化にビックリしたと同時に、人の力の凄さ・関わり方の大切さを実感した。(S/A)



貴重な時間 / ナイス・ケア

「おはようございます。夜は眠れましたか？」気が引き締まる1時間15分の始まり。病気を抱えながらの在宅生活は、一人で大変な部分も多々あるかと思う。それを少しでもお手伝いし、自身で出来るように援助するのがヘルパーの仕事だと思っている。ご本人に確認しながら、お風呂・トイレ・台所…の掃除。



私達は生活の場へお邪魔する。緊張して当たり前。制度改正後は時間も短くなった。緊張と慌たしさ乗り越えて、目配り気配り楽しい会話をしながら訪問介護。そんな1時間15分を目指したい。(K/N)

保護者の声 / ナイス・キッズ

セミの声が賑やかになってきましたねっ。遂にやってきました夏休み～。キッズでは午前中に宿題を済ませ、午後からは大いに遊んでいる様子です。(勉強が終わらないと昼食も遊びもダメとか…)

プール、ジャガイモ堀り、カメのたまご観察、実験教室、スイカの種飛ばし大会…等々。じつに盛りだくさん。保護者としては嬉しい限り。気の知れた仲間と最高の夏休みを過ごして心身共に成長してねっ♥(A/H)



暖かい言葉 / 愛宕の家

S・O・Sで勤め始めて足かけ5年。この度、突然の配置異動で、愛宕の家の専任者となった。

今更なのだが、本格的に高齢者と向き合うこととなり、個性的な顔ぶれ揃いの入居者さん達の目には、新参者の私はどのように映っているのだろう。

そんな私の不安な気持ちが思いっきり顔に出ていたのだろうか、やはり伝わってしまふものなのか、入居者の方から、「まあ、あんたも若いのだから、大変だろうが頑張りなさいよ！」とやたら声をかけられた。私もそんなに若いわけではないのだが、人生の大先輩からしてみたら若いだろう。でもそんなことを言わせてしまったことに反省するとともに、ちょっぴり涙が出そうになった。

1か月近く経って私の顔に慣れてきたのか、そんなことを言われることも減ってきたが…。そんなわけで、自分のことばかりになってしまったが、次からは入居者さんの様子などを交えてお伝えできればと思う。(K/T)

看護と介護 / 看護師

「介護とは何？」という質問をしたら、びっくりした顔して『考えたことない！』とサポート・ワン・サービスのスタッフ。「考えたことないの？」とこれまた私もびっくり。

私が総合病院から離れ、介護現場で働いて約5年。医療現場と介護現場では利用目的が異なるから一概には言えないけれど、私が感じているのは介護現場や在宅医療においては介護職員が多様な情報を持っているということ。利用者や家族にとって、身近な存在として介護職員がいるのだろう。医師は勿論のこと看護師も、どうしても“ちょっと偉い人”らしい。実際に、「看護師にだってなんだって言うていいのよ！」と言われても、なかなか言えない気持ちは(色々な経験上)よく分かった。だから、『教えてよ。話してよ。』と利用者さんや家族に求めるのではなく、介護職員に求めるのだ。そうすると、出てくる出てくる、色々な情報が。介護職はその情報を情報と思っていない、情報の活かし方が分からないのだ。というか知っていて当たり前の情報なのだ。だからその情報を聞きだし、その情報をどう活かすか、介護職員と現場の様子を確認しながら、利用者や家族にとって穏やかな日常が過ごせる方法を探る。多職種協働、力を合わせると色々な知恵が出ると思っている。

次男坊が歩き始めた。1歳4ヶ月、重～く大き～い頭と体でバランスとって「どうだ！」と自信満々の表情。歩き始めたことだし、3人目を夫に相談したら『“ゆとり”がないからダメ』だって。“ゆとり”かあ。ゆとりってなんだろう。長男も次男も私もバタバタした中でゆとりを感じながら成長しているけどな。(M/T)

編集後記

車を運転中、歩行器で犬の散歩をしてみえる方を時々見かけます。その犬は、飼い主の身体状況を知っているのか？人間のペースでゆっくりと歩いています。じーっとみていると何だかあったかい気持ちになる光景です。私たち介護職もそんなふうを感じてもらえるような関わりができればいいなあと思う今日このごろです。(Y/O)

位置覚障害 / 理学療法士

前回の通信で知覚障害の事を書きましたが、今回は位置覚(関節覚)の障害について説明します。脳梗塞や脳卒中によって、位置覚が障害されると、麻痺側の足や手が今どういう状態にあるのかがわかりづらくなります。簡単に言うと、自分の足が曲がっているのか、伸びているのか分からない状態です。私たちは目を閉じていても自分の足が今どういう状態にあるかわかります。

位置覚が障害されると歩くのも大変です。自分の足が今どういう状態で、どういう風に動かせばいいのかの理解ができないのです。足を出すのも、起き上がるのも一苦労です。目には見えないけれど障害されている部分が理解できると、患者さんへの理解もより深まると思います。(U/I)

新しい環境 / ナイス・デイ

誰でも経験のあることだと思いますが、新しい環境に慣れる事は大変な労力がかかりますよね。ましてや高齢者なら、認知症の方なら…。それはそれは不安な事なのです。受け入れる側も、過去の生活を知る事から始まり、人柄も理解するには相当の時間が必要です。

最近利用される事になった方は送迎車に乗る事には抵抗がなくなったものの、デイに到着早々「まあ家に帰らなあかん」と言われます。『知らない所に来た不安』を『楽しむ場』と感じてもらうには、まだまだ時間が必要です。

他の利用者さんの力も借り、スタッフも協力し合っていますので、ご家族の方も長い目で見守っていて下さいね。(E/T)



小学2～4年生KIDが4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚を大人が選び、掲載します。



7月に利用者アンケートを実施し、皆様に提出して頂きました。率直な言葉として受け止め、今後の見直しの際に生かしたいと考えております。本当にありがとうございました。

(株)サポート・ワン・サービス
代表 飯尾淑子